

01-024

東日本大震災の被災地の子どもたちの心のケアーボランティアによるリフレッシュキャンプの活動報告：第4報ー

佐藤 紀子^{1,2}、江原 伯陽^{2,3}、奥山 真紀子^{2,4}、
田中 恭子^{2,4}、中村 安秀^{2,5}、齋藤 和恵^{2,6}

¹総合母子保健センター愛育クリニック

²子どもの心と身体の成長支援ネットワーク

³エバラこどもクリニック

⁴国立成育医療研究センターこころの診療部

⁵甲南女子大学

⁶東京慈恵会医科大学

【目的】

2011年3月11日の東日本大震災は、地震、津波、及びそれに続く福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害と混乱をもたらした。この直後より、被災地の子どもたちへの心のケアの必要性が認識され、様々な支援が行われてきた。その中で、同年5月に小児に関係する団体を中心に「子どもの心と身体の成長支援ネットワーク」が立ち上げられ、これを主体として、心のケアの一つとしてのリフレッシュキャンプが、同年8月から2018年3月までに15回にわたって開催された。今回、この経過を報告し、今後の支援活動の一助としたい。

【方法】

2011年8月から小学生のためのキャンプと、未就学児と家族のための親子キャンプを開始した。費用負担は、団体、個人からの寄付、運営スタッフは、ボランティアで、特にキャンプ活動の運営に明るいボーイスカウト、ガールスカウト、YMCAの3団体を中心に、医師、心理士、看護師等、医療や心のケアの専門スタッフも参加した。スタッフは事前に災害や心のケアに関する研修会に参加し、この活動への共通認識を持つようにした。対象地域は福島県相馬市とし、市教育委員会や地元の関連団体を通じて参加者を募集した。

【結果】

小学生のためのキャンプは、第一回から、定員を越す応募者があり、2017年8月まで8回行った。未就学児のための親子キャンプは、2018年3月まで7回行った。この事業によるネットワークを活かし、2014年からは相馬市での「おもちゃのひろば」活動を開始し、さらに、2016年の熊本地震支援として、現地で「おやこあそびのひろば」を開催した。2018年の7月豪雨の被災地である広島、岡山においても、同様の活動を行った。

【考察】

東日本大震災支援のために立ち上げられたネットワークが、震災後の時間経過とともに、キャンプ活動以外の展開に広がっている。また、その後の他の地域の災害においても子どもたちの支援に活かすことができ、息の長い活動が継続している。